

平成29年度第6回協働事業評価会

平成29年12月15日（金）午後2時

本庁舎6階 第3委員会室

出席者：久塚委員、宇都木委員、関口委員、衣川委員、及川委員、伊藤委員、吉村委員、
加賀美委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、神原管理係主査、勝山主任、松永主事

久塚会長 定足数は達しています。時間が来ましたので、時刻なので始めたいと思います。では、評価会のほうの資料の確認をお願いします。

事務局 では、評価会の資料でございますけれども、クリップどめでとめさせていただいております1枚目が次第。

二つ目が、ホッチキスどめになっているもので資料1、評価コメント案。

二つ目もホッチキスどめになっているもので資料2、報告書の案となっております。お手元におそろいでしょうか、よろしいでしょうか。

久塚会長 それを使って会議をさせていただきますけれども、分量的に少し多く見えるのが資料1で、皆さん方からご意見をいただいたものをベースに網かけの部分以案をつくらせていただきました。では、事務局、お願いします。

事務局 では、ご説明させていただきます。前回第5回の評価会のほうで皆様からいただいたご意見を反映した形で資料1、コメント案のほうを作成させていただきました。その上で最終版の報告書の案を資料2としてご用意しています。

こちらの評価報告書（案）ですけれども、本日確定とさせていただきますして、1月26日に会長のほうから区長のほうに手渡しをさせていただきたいと思っております。

では、資料1をもとに修正箇所のほうをご説明させていただきます。

まず、1枚目でございますけれども、網かけ部分を修正箇所という形でさせていただいております。右側が修正案、左側が前回のコメントをそのまま入れさせていただいております。左側の下のところに、前回いただいたご意見をちょっとまとめさせていただいたものをご用意させていただいております。

前回いただいたご意見としましては、まず高齢化社会などちょっと文言の修整が必要ではないかというご意見と、他の項目と文言の統一をしたほうが良いというご意見をいただいております。

それから、2点目としまして「今後さらにさまざまな層の人たちの参加を期待する」ということを記載したほうが良いということでご意見をいただいております。こちらにつきましては、後ほど出てきます項目7のほうに入れさせていただいております。この前回の意見を踏まえまして修正をしたものが右側の修正案という形になっております。

修正案の下のほうに矢印で今回修正をした内容を簡単にまとめさせていただいております。文言の修正をしたというところで、まず1行目の「高齢社会」となっていたところを「高齢化社会」と修正しております。

久塚会長 今気がついた。これ、「社会」をとったほうが良いような気がするのですけれども。加速化する高齢化、高齢化社会が加速化してもちょっと変なので、いかがですか。

事務局 今後ますます加速化する。

伊藤委員 社会をとってしまったほうが。

久塚会長 いいですね。

伊藤委員 高齢化が加速化するのではなくて、社会が加速化するのではないですか。

吉村委員 そうしたら社会の高齢化とかと言ったほうが。

伊藤委員 そう、そう。

吉村委員 社会は何かないと、ちょっと。

加賀美委員 社会は残したほうが良い。

吉村委員 うん、だから社会の高齢。

久塚会長 では、今後ますます加速化する社会の高齢化において。

事務局 はい、社会の高齢化。

久塚会長 私はそこだけちょっとビツと気がついたの、ほかのところは了承でございますけれども、ほかの委員の方はよろしいですか、1枚目？

伊藤委員 はい、いいです。

久塚会長 では、2枚目をお願いします、2ページ目。

事務局 わかりました。では、2枚目ですけれども、右下に書かせていただいております。総合評価にリーダーの必要性の部分を補記するというご意見が前回出ておりましたので、こちらの項目にもそれに合わせて補記をさせていただきました。網かけ部分が追加と

なっております。「また、本事業は地域の核となる人材『リーダー』を育成し、高リスク者の発見や周囲の気づきにつながる知識、予防策等を普及啓発していくことを目指しています。こうしたことを踏まえ、リーダーの活動方法さらには製作したDVDの活用について、さらに一步踏み込んだ、より具体的な目標設定がなされることを期待しています」以上でございます。

久塚会長 リーダーの必要性、よろしいですか。

伊藤委員 はい。

久塚会長 では、3ページ目をお願いします。

事務局、左下です。前回のご意見で、共催で実施した経験を生かすことでさらなる効果が期待できるのではないかと。これまでのベースが生かされるような取り組みを期待する表現を追加するというご意見をいただいております。

それを踏まえまして右側ですけれども、網かけ部分を文章の組み立てからちょっと修正をさせていただいております。3年間という期間になりますので、こうした蓄積・基礎を生かすことができるのはこの事業の強みであると考えます。ぜひこうした基礎を生かすとともに、できるだけ多くの関係者に参加を呼びかけるなど、協働の相乗効果を十分に発揮して、効果的に事業実施していくことを期待しています。

伊藤委員 1点というか、気になったところがあるので。「こうした蓄積・基礎を生かすことができるのは」と書いてあるのだけれども、ここがちょっと気になって、ここを「期間になりますので、培った知識、ノウハウを生かすことができるのは」という簡単な言葉にしたらと思います。

事務局 わかりました。

伊藤委員 その後、この今度は3段目の「こうした基礎を」と「基礎を生かすとともに」と、この「基礎」は「基盤」のほうがいいのだ。

久塚会長 では、ほかにございませんか、よろしいですか。

関口委員 はい。

久塚会長 では、もう1件目、ちょっと多いのですがよろしくをお願いします。

事務局 すみません、前回のご意見ですけれども、この項目が分担の決定方法が適切かどうかという項目になるので、「分担が明確か検討が必要」という表現は修正をすることでご意見をいただいております。

それから、項目3と同様にこれまでのベースを生かして分担を決定するというを追

加するということでございます。

これを受けましてこちら全体的に修正をさせていただきました。定期的な打ち合わせや電話等によりコミュニケーションが図られており、役割分担についても対等な立場で意見交換に努めていると考えます。事業の企画等について双方でよく検討している点や、団体の人脈を生かして専門家を交えた会議を設置するなど、ノウハウを生かしながら事業実施されている点は評価できます。

協働事業では役割分担は重要な要素であり、最も効果的な分野をお互いが担い、各々の強みを生かした分担とすることで、最大限に効果を発揮するものと考えます。

過去にイベントを共催したことによる蓄積・基礎も活用し、双方の役割や責任の範囲を常に確認しながら、より効果的に事業が実施されることを期待しています。

以上でございます。

久塚会長 流れはよくなった。大丈夫ですか。

関口委員 ここは直さなくていいのですか。

伊藤委員 そう、さっきのところ、そこだけ。

事務局 そうですね。

伊藤委員 下からの三つの行と。

事務局 はい。「蓄積・基礎」の部分を前の項目に合わせて修正をさせていただきます。

衣川委員 知識、ノウハウだけでいいのではないですか。

事務局 「培った」もどうしますか。

衣川委員 共催したことによるで。

伊藤委員 いや、前に出ているからそれでいいのではないですか。

事務局 ちょっとでは文章の感じを見て調整させていただきます。

伊藤委員 あまり入れていくとしつこくなるから。

久塚会長 では、あまり重複箇所がない形で、今のご意見、衣川さんのご意見。

事務局 わかりました。

久塚会長 では、5ページ目をお願いします。

事務局 5ページですけれども、前回のご意見で最後の段落の修正ということで、「意識しながらの」表現を「絶えず確認し、話し合いをする」という表現にするということと、目標の部分をかぎ括弧でくくって先頭に持ってくるということでご意見をいただいております。

これを踏まえまして、下のところの網かけがこの意見に対する修正部分になっておりますけれども、「高齢者が健康な生活を送るためにどのような取り組みが必要かという本事業の目標を絶えず確認し、話し合いを持ちながら、取り組みにつなげていくことを期待しています」という表現に修正をさせていただきました。

上の網かけはよりわかりやすく表現を修正したものでございます。

以上です。

久塚会長 よろしいですか。

及川委員 「本事業の目標」というところで、かぎ括弧にしてある内容の高齢者が健康な生活を送るためにどのような取り組みが必要か。この文が疑問文みたいな形で目標というふうにしても、文言としても大丈夫なのでしょうか。今後の取り組みとかそういうニュアンスなのかなと思うのですけれども、必要かというのが。

事務局 わかりました、「必要か」という表現を直したほうがいいということですか。

及川委員 はい、ちょっとアイデアは浮かばないのですけれども、結構気になるなというところですよ。

衣川委員 高齢者が健康な生活を送るための取り組みと。

及川委員 そうですね、順番だったらそのほうが。

衣川委員 ために必要な取り組み。

事務局 「どのような取り組みが必要になるか」だとまた疑問形ですものね。どうしましょうか。

衣川委員 目的ですか、では目標ではなくて。

吉村委員 生活を送るために取り組みを進めるというふうに入れる。

及川委員 そうですね、そんな感じですかね。

久塚会長 よろしいですか。

及川委員 はい。

久塚会長 では、6ページになりますが修正なし。

事務局 7ページですが、「今後さらにさまざまな層の人たちの参加を期待する」というコメントを入れ、すそ野を広げることで事業の広がりが出るというところを入れるというご意見をいただいております。

これを受けまして網かけ部分を修正させていただいております。これ、前回のご意見とプラスしまして、後ほど出てくる総合評価の表現にも合わせて修正をさせていただきます。

た。

「今後に向けては、モデル地域から全区的な取り組みをどのように展開していくのか、ホームページの構築に向けてウェブサイトを活用した広報に力を入れていくことについて検討が必要と考えます。

こうした活動を日常生活で習慣化し、区内全域に定着させていくことは、相応の時間を要することだと思います。双方が持つネットワークを駆使し、より多くの団体に参加を呼びかけ、1人でも多くの人、さまざまな層の人たちにこの活動を知ってもらうことで、すそ野が広がり、事業にも広がりが出ると考えます」ということで修正をさせていただきました。

久塚会長 よろしいですか。

関口委員 はい。

久塚会長 では、総合評価でちょっと文章が多いのですけれどもお願いします。

事務局 まず10ページをごらんください。

前회のご意見ですけれども4点いただいております。事業実施に遅延が見られるので、計画に沿って進捗管理していくことが必要であるということを追加するということと、参加者層に偏りがある、多くの人に参加してもらうことで、事業の広がりが出ることを追加記載する。それから、3点目としてリーダーに関する記述が何回も出てきて、強調され過ぎており、重複が見られるのでまとめる。採択時のリーダーの趣旨からリーダーの重要性を記載し、成果目標の必要性がわかるような記載にする。

それから、4点目としまして「医師会、地域団体、NPO」と何回か出てくるが、個別項目では触れられていない表現になるので、全体的に個別項目の表現と統一するということで4点ご意見をいただいております。

これを踏まえまして1枚お戻りいただきまして9ページです。9ページの右下ですけれども、全体的に個別評価の表現と合わせて表現を統一させていただきました。それから、リーダーの必要性の補記をいたしました。それから、3点目、さまざまな層の人に参加してもらうというところを追加しました。また、進捗管理の部分の遅延のことを記載しております。

さらにちょっと全体的に長文化してしまいましたので、表現のほうをまとめさせていただいたという修整をさせていただいております。

読ませさせていただきます。よろしいでしょうか。では、「高齢化が進む中、摂食嚥下機能の

維持・向上は重要な課題であり、日常的な取り組みが大切であることを区民に向けて普及啓発することが喫緊の課題となっています。本事業は、そうした課題を的確にとらえており、その成果が期待される事業となっています。

適切な話し合いのもと、コミュニケーションを密に図りながら事業実施されており、事業対象の高齢者が集う既存のサロンや会合に出張する戦略も成功していると考えます。こうした地域に根差した地道な活動に加えて、団体の人脈を生かして専門家を巻き込むなど、ノウハウを生かしながら事業が実施されています。

一方で、本事業は地域の核となる人材・リーダーを育成し、高リスク者の発見や周囲の気づきにつながる知識、予防策等を普及啓発していくことを目指しています。また、楽しく取り組むことができるツール開発も目指していますので、こうしたことを踏まえ、リーダーの活動方法や製作したDVDの活用について、さらに一步踏み込んだ、より具体的な目標設定がなされることを期待しています。当事者による口腔機能の向上の確認等、アウトカム指標の設定も検討してください。

また、進捗状況に遅延があるとのことですので、計画の進捗管理、目標や指標の達成状況を確認しながら事業実施していくことが重要と考えます」。

次ページでございます。「今後に向けては、モデル地域から全区的な取り組みをどのように展開していくのか、ホームページの構築に向けてウェブサイトを活用した広報に力を入れていくことについて検討が必要と考えます。

高齢者にとって嚥下障害の予防は重要な課題であり、その課題解決に向けた本事業は、他自治体のモデルともなり得る可能性を持った事業であると考えます。新宿区全域に広げていくことは非常に大変なことだと思いますが、双方が持つネットワークを駆使し、より多くの団体に参加を呼びかけ、1人でも多くの人、さまざまな層の人たちに活動を知ってもらうことでそ野が広がり、事業に広がりが出ると考えます。本評価書やヒアリングでの質疑等を踏まえ、今後の改善を図ることで、さらなる成果を発揮した事業となることを期待しています」。

以上でございます。

久塚会長 よろしいですか。

吉村委員 すみません、9ページの一番上のところの文章の「ホームページの構築に向けてウェブサイトを活用した広報に力を入れていく」ということが、何を言っているのかよくわからないと思うのですが。一つは今後に向けてはモデル地域から全区的な取り組み

を展開していく方策を検討する。もう一つは。

伊藤委員 ホームページの構築。

吉村委員 ホームページの構築を検討する？ウェブサイトを活用した広報をどのようにやっていくのかというところについていく？

事務局 そうです。そちらのほうが主になります。3年目がホームページの構築になっておりますので、それに向けてウェブサイトを活用した広報に力を入れていくというところも必要ではないかということを入点目として入れさせていただいております。

吉村委員 必要ではないか。

事務局 はい。

宇都木委員 「広報にも」を入れればいいのだ、「も」を。

事務局 はい。

吉村委員 最終的にはホームページの構築をするということ？

事務局 はい。

吉村委員 構築に向けて。

加賀美委員 構築に向けてウェブサイトを活用した。

吉村委員 変だよな。

伊藤委員 向けて。

吉村委員 何をしたいのかがよくわからない、ウェブサイトの活用。

加賀美委員 ホームページを構築して、それでウェブサイトを活用した広報に力を入れていく。

吉村委員 そうだよな。

加賀美委員 ホームページを構築するという。

事務局 いえ、いえ。

伊藤委員 主体はウェブサイトなのだろう？

事務局 これから構築するので、それに向けて。

加賀美委員 ホームページを構築して。

伊藤委員 に向けて、向けてだよ。

加賀美委員 いや、ホームページとウェブサイトはどういうふうにつながってくるの、ホームページとウェブサイト。

伊藤委員 ホームページの構築に向けてのウェブサイトだろう。

事務局 前回のときのご意見の中で、今後ホームページを構築していくのであれば、ウェブサイトのほうももっと充実をさせていったほうがいいのではないかとということでご意見をいただいていたので。

加賀美委員 ホームページだけではなくてということ？

事務局 そうなのです。それに向けてウェブサイトが、今ちょっとあまり更新がされていないような状況なので、そういうところを。

加賀美委員 ホームページを初めとしたウェブサイトを活用した広報に力を入れていく、そういう広報にするといい。ホームページだけではないのでしょうか？

事務局 そうなのですけれども。

久塚会長 最終的にホームページに行くために。ウェブサイトを活用して。

事務局 3年目にホームページをつくるのです。

吉村委員 このウェブサイトは今のウェブサイトなの？

事務局 今団体が持っているウェブサイトが。

久塚会長 そう、そう、そう。

事務局 あまりちょっと更新がされていないというところで。

久塚会長 だから、所有者はそこなのです。

加賀美委員 団体の持っているウェブサイト。

久塚会長 一般的などいう。

加賀美委員 では、団体が持っているウェブサイトは何だっけ？それはホームページではないのだ、団体のホームページではないのだ。

吉村委員 団体のほうでしょう。

事務局 ホームページもありますし、ツイッターですとかいろいろな方法が今ありますので、そういうところをもっと力を入れていかないとホームページもできないのではないかとということ。

吉村委員 要するに、本事業専用のホームページを構築するに向けては、何々の団体のウェブサイトというのが説明不足な感じ。

事務局 すみません。ということなのですけれども、そこをちょっと簡単に入れたかったのですけれどもこうなりました。

伊藤委員 「ホームページの構築に向けては」でしょう。

吉村委員 現行の団体のウェブサイトを活用した。

伊藤委員 そう、そう。

吉村委員 というふうに言ってくればわかります。

久塚会長 だれの持ち物かということがわかるようにして。

私、8ページとくると思ったのですけれども。また、進捗状況に遅延があるとのことで
すので。

吉村委員 ああ、ここにあるのだ。

伊藤委員 僕もここはこういうふう考えたのだけれども。

進捗状況に遅延があるとの認識ですので、進捗状況に遅延があると認識していますので。

久塚会長 本人たちが。

伊藤委員 認識していますので、計画の進捗管理、だから。

吉村委員 進捗がおくれがちとかそういう平易な言い方で、遅延が認められるとか。

伊藤委員 認めると自分たちが認識しているのだ。

自分たちがおくらしていると。だから、その認識していることを。

久塚会長 ちゃんとやってくださいと。

伊藤委員 そう、やるための項目が、計画の進捗管理と目標や指標の達成状況の確認だ
と。

加賀美委員 本当におくらしているの？

久塚会長 少しおくらっていて、それを自分たちは気がついている。

加賀美委員 客観的にどこに出るのですか。いや、これを第三者が見てもおくらしている
の？

吉村委員 だったら、「ことですので」じゃなくても別にいいのでしょうか。

加賀美委員 そう、そう、そういうことだもの。

吉村委員 自他ともに認めることで。

加賀美委員 進捗状況が遅延しているので、計画の進捗管理とか言えばいい。

このところを進捗状況が遅延しているので、計画の進捗管理、目標や指標の達成を確認
しながらでいいじゃない。

吉村委員 そう思う、そのほうが素直です。

加賀美委員 進捗状況が遅延しているのと。

伊藤委員 そう、「が」にすると。

事務局 わかりました。

加賀美委員 この評価会で遅延していると認めているわけでしょう。

伊藤委員 そう。

加賀美委員 だから、遅延済みでしょう。だから、そういう書き方をすればいいことだ。

事務局 はい、わかりました。

及川委員 すみません、及川です。9ページの先ほどの点なのですけれども、真ん中あたりの「すそ野が広がり、事業に広がりが出る」というところ、広がりが広がり。

加賀美委員 広がり、広がりになってしまう。

及川委員 続いてしまうので例えばなのですが、「すそ野が広がり、事業に発展性が見込めると考えられます」とか、ちょっとこう同じ文章が繋がらないほうがどうかと思います。

久塚会長 そうだね。広がりが2カ所にならないような形の文章にしてください。

事務局 わかりました。

久塚会長 あと、吉村さん、さっき10ページとおっしゃったのはどういう形？

吉村委員 ①の文章が何か回りくどいなと思っただけです。

伊藤委員 それは前に入っていたから。

吉村委員 はい。

伊藤委員 9ページに入ってしまったよ。

久塚会長 そのほか、今通して事務局に読んでもらったのですけれども、特に自分が事前にごらんになって気がついたところというのがありましたら、ありませんか、大丈夫ですか。

それを反映させたのが資料2の形になるという。ですから、これの中に今入っているものがありますけれども、委員から指摘された箇所を修正して完成版といたします。

含めて資料2について解説してくれますか。

事務局 わかりました。

久塚会長 では、文章についてはそれで確定というふうにいたしまして、2を使った説明。

事務局 では、すみません、資料2でございませけれども、前日も資料2、報告書(案)としてご提示をさせていただいておりますので、修正した箇所のみ本日も説明をさせていただきます。

2枚おめくりいただきまして2ページをごらんください。「評価を終えて」のところでは

けれども、網かけ部分でございます。会長のお言葉の部分ですけれども、会長のほうとご相談をさせていただいて入れさせていただいております。「事業開始直後ですが、高齢者が集う会合に出張するなど、地域に根差した活動が展開されており、団体と事業課の熱意を感じる実施内容となっています。この事業は、誤嚥に不安のある高齢者やその家族にとって、非常に期待が高い事業です。区民への普及啓発に向けた今後のさらなる活動に期待しています」というお言葉を入れさせていただきました。

久塚会長 高橋さん、それでよろしいでしょうか。

高橋委員 ありがとうございます。少し希望が持てるような表現でうれしいです。

関口委員 1年目ですから、1年目。

高橋委員 この視察というのでしたか、あれがとてもよかったですよね。あれは皆さんがすごく喜んでいたと思った。今もDVDの制作に向けて、音楽が部長室にも聞こえてくるのですけれども、みんなで視聴したりして、ほぼできつつあります。

久塚会長 だから、そこでシュッとならないように、せっかくいいところまでやっておられるので、あとリーダーの育成まであるじゃないですか、そこに集まった人だけではなくて。だから、掲げた目標に見通しなくいって。

2ページ目はそれで。

事務局 よろしいでしょうか。続いて、3ページ目ですけれども、上から2行目の下線部でございます。協働事業の進捗調査の29年度の数字を入れさせていただいております。本年度は264という数字になっております。現在申しわけないのですが、精査中でございますので、区長報告までに確定値を入れさせていただく予定となっております。

あとはずっとおめくりいただきまして9ページ以降にこのコメント案を、今の段階のコメント案を入れさせていただいております。

あと、ずっとおめくりいただきまして、21ページ以降にヒアリング時の提出資料を入れさせていただいておりますけれども、団体にも改めて確認を求めまして、誤字・脱字などの確認をしたものを最終版として入れさせていただきました。21ページ、22ページ、23ページ、24ページ、25ページとヒアリングの資料が入っております。

久塚会長 これは団体に確認しているのですよね。

事務局 はい。前回からの変更点としては以上でございます。

久塚会長 何かお気づきの点がありますでしょうか、大丈夫ですか。特になければこれで先ほどの。

伊藤委員 この23ページの10月6日、10月11日予定と書いてあって、これは実施に入るのだよね。

事務局 ヒアリングが9月でしたので、9月時点で。

伊藤委員 これを出すときにはもう今じゃない。だから、これは確定していれば、予定がなくなって利用者実績なんかが入ってくるでしょう。

事務局 この資料自体が9月のヒアリングのときに。

伊藤委員 それを使っているのか。

事務局 そうなのです、見た資料ということにつけさせていただいているので、すみません。ここは予定のままです。

伊藤委員 だけど、そこを確認しておいて、やったかどうかは。

事務局 わかりました、もちろんです、はい。

伊藤委員 やっていないのも困るから。

久塚会長 難しいよね、でも使い方が。いつの時点でこうなっていたということはどういうふうに見るか。

ほかにはよろしいですか。いいですか。

関口委員 はい。

久塚会長 では、これで先ほどのお送りいただいたものをまた反映させて報告書というふうにして1月に区長に提出ということになります。どうもありがとうございました。

事務局 次回ですけれども、1月26日になります。本日と同じ部屋で午後1時半からになります。2時からではなくて1時半からでお願いいたします。区長への報告書の提出になりますので、申しわけないのですが少し早目に、10分ほど早目にお越しいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

宇都木委員 この時間でいいのね。

事務局 はい、また改めてご通知のほうをさせていただきますが。

久塚会長 1時半少し前。

事務局 そうですね、少し。

伊藤委員 15分ぐらいに行けばいいのだ。

事務局 よろしく申し上げます。

久塚会長 ということですのでよろしく申し上げます。

— 了 —